

## 生活環境論

[講義] 第3学年 前期 選択 1単位

《担当者名》○鈴木英樹 hideki-suzuki@hoku-iryo-u.ac.jp 長谷川純子 石田亨平（特別講師）

### 【概要】

生活環境支援の基本的理念と関連法規を理解し、地域環境も含めた生活環境整備における理学療法士の役割を把握する。また、人間の活動と環境の相互作用を理解し、高齢者や障がい者の生活支援のための生活環境評価や住環境整備の方法について具体的理解を深める。さらに、様々な疾病や障害により生ずる生活障害の軽減へ向けた住環境整備の具体的方策について、その立案および提案方法を実践的に習得する。

### 【学修目標】

#### 【一般目標】

地域で生活する高齢者や障害者が、住み慣れた地域でその人らしい暮らしを継続する支援ができるようになるため、基本的な生活環境整備を理解する。基本的理念、関連制度、具体的支援方法について説明できる。

#### 【行動目標】

1. ICFにおける「環境要因」の位置づけや具体的内容について説明することができる。
2. 我が国の生活様式の変遷や課題について説明することができる。
3. 一般的なバリアフリー設計基準について説明することができる。
4. 加齢に伴う心身機能の低下、或いは疾病や障がいの状況を踏まえた環境整備について提案をすることができる。
5. 障がい者が地域コミュニティで生活して行く上での環境的課題について説明することができる。

### 【学修内容】

| 回      | テーマ                          | 授業内容および学修課題   | 担当者                |
|--------|------------------------------|---|--------------------|
| 1      | ガイダンス<br>生活環境整備の意義           | ・授業全体の内容や日程の概説<br>・なぜ生活環境論を学ぶのか<br>・理学療法士が生活環境整備において果たす役割 | 長谷川純子              |
| 2      | 生活環境整備の共通基本技術                | ・家屋内の場所別 生活環境整備の方法<br>・福祉用具の活用                            | 長谷川純子              |
| 3<br>} | 住環境整備の例                      | ・障害別の住環境整備例   | 長谷川純子              |
| 4      |                              |   |                    |
| 5      | 住環境整備の例                      | ・転倒骨折予防のための生活環境評価と整備                                      | 鈴木英樹               |
| 6      | 生活環境整備に係る法令と理念               | ・バリアフリーとユニバーサルデザイン<br>・これらに関する我が国の法整備の現状                  | 鈴木英樹               |
| 7<br>} | 障がい者が地域コミュニティで生活して行く上での環境的課題 | ・コミュニティが抱える環境的課題について                                      | 鈴木英樹<br>石田亨平（特別講師） |
| 8      |                              |   |                    |

### 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

### 【評価方法】

講義中の課題 100%

### 【教科書】

東京商工会議所 編 「福祉住環境コーディネーター検定 2級公式テキスト改訂第6版」

### 【参考書】

伊藤利之他 編 「新版日常生活活動（ADL）～評価と支援の実際～」 医歯薬出版 2010年

千住秀明 監修 「理学療法学テキスト 生活環境論」 神陵文庫 2006年

東京商工会議所 編 「福祉住環境コーディネーター検定 1級公式テキスト改訂第6版」

東京商工会議所 編 「福祉住環境コーディネーター検定 3級公式テキスト改訂第6版」

NPO法人NPO推進北海道会議 著 「えきペディア地下鉄バリアフリーマップ札幌」 2014年

### 【学修の準備】

我々の身の回りにある生活環境、さらには街の様子など、様々な周辺環境に興味関心を持って講義に臨むこと。

予習は、配布した授業資料や教科書のなかから次回の授業範囲を読んでおくこと(80分)。

復習は、教科書やプリントを活用し学修を深めること(80分)。

**【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

(DP2)最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

**【実務経験】**

鈴木英樹(理学療法士、専門理学療法士、介護支援専門員)

長谷川純子(理学療法士、福祉住環境コーディネーター1級)

**【実務経験を活かした教育内容】**

医療機関や訪問リハビリテーション業務を通じて経験した高齢者や障がいをもつ方々の生活環境について説明を行うとともに、それらに対する働きかけが当事者の生活に及ぼす影響についても説明を行い、理学療法士として当該分野に関わる際の基本的視点と知識技術について理解する。